宿題委員会報告

第二回常備打合せ会において決定した今年度の宿題「農地改革の村落社会に及ぼした影響」について宿題委員会を、三月二四日午后、長多野栖一氏宅に於て開催した。

出席者は、有賀、長多野、田田の諸氏及び塚本の四名であり、森住氏は※事があると思われる。

※出張中のため欠席された。

以下当日の宿題委員会に於て論議された要点を報告した。

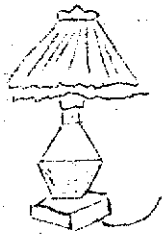
(一)本年度の宿題は、問題が余りに広範に亙るものであるため、どうしても中心的なものにしぼる必要がある。そしてこの問題限定の一案としては、農地改革そのものに直接関係ある社会的事実、つまり農地改革の対象領域となる

(二)そして、これに対する反応の過程かなり一般に求められるが、農村における[illegible]として農地委員会の活動を把握すること、その意味で農地委員会が問題になること、こちらに、農村に於るリーダーシップの生成とその変動がこれと如何に関聯しているかを注視すること等が基本的であると思われます。

すなわち(イ)農地改革面における村内の政治的諸関係その他にみられる村内指導者とそれに追従するものとの事(ロ)それの農地改革過程における農地委員会の動向への反映のしかた(ハ)改革終了後におけるその農地委員たちの位置と改革の行方というように三つの時期的段階に区分して考えられるが、この三時期における指導者の出方の相違に問題がかくされているのではなかろうか。しかし、このうちでも、とくに考えるべき主眼は農地改革全上の時期、農地委員会におくのは云うまでもない。

(五)以上のような問題は、部落あるいは村の問題として考えるだけでは決して解明しうるものではなく、行政村全体に対する視野がまず必要であり、さらにより大きなひろがりにおいて捉えられなければならない。その限りにおいてもこれは決して安易な宿題ではない。しかしながら、従来の農村社会学にとって弱点と考えられていた点、すなわち、農村における生活共同体とみられる村落部落などに問題として研究が進められてきたこと、あるいは、農村社会学をとしてのみ把握することに立ち三つたごとき範疇をこえていくためには、決して無意味ではないと思われる。

(六)他方において、従来社会学のがわから行われてきた諸研究の成果が、このような宿題研究にとって決して無力ではないことを知るべきであろう。地主小作と厳然と二分して考え、これによって農地改革の顛末を画期と分析することは、かなりなされてきたとしても、地主の内部または小作の内部に多様なものがふくまれているのであり、しかも、それは、右にあげた三時期によって少からぬ変動があるのにちがいないのである。したがって、時期別的

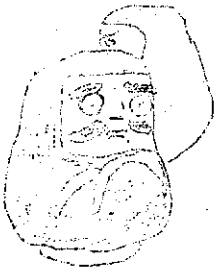


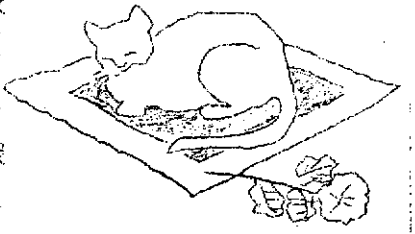
組織をもって農村構成の変化、リーダーシップの変動を注目すると共に、これに即して地主勢力、それに対立するものの勢力について、それぞれ内容的分析をこころみるべきであろう。こゝにありて、すでに相当の業績をあげてきたと思われる本家、分家、親方子方、親族などに関する研究成果をさらに地主勢力の分析という視点から再検討するべきである。本家の長として勢力や親分のもつ支配の機構、あるいはこれらに知られる権威、権威をめぐる考え方は、多くの場合地主勢力の支持と無縁でないと思われるからである。

以上のことに関する会員各位の御意見の乗った所、数度にわたって同僚する予定である。

○当座御批判を賜わり

（塚本市人）





さに御厚意致しました年報の件につき早速多くの方から御返事をいただき本部としても非常によろこんでおります。お世話下さった会員各位以下に御報告して更に皆様の御意見をこたづき、完全な年報にしたいと思います。

○四月定例会（記事）今年の村落研究の主題テーマと今後の諸問題の検討会のもたれたが、執筆者は一人一項でも、一人二項でも差支へなし。応用面とは何かわかっていない。実践との関連であれば会員外でもエキスパートにお願いしたい。

○天満宮氏（大阪市立大）項目は（理論と方法）2家族（農村、山村、漁村）3村落社会（農村、山村、漁村）4農村文化 5農村生活 6教育 8自治 9口体 10政党 11家族（12農民意識 13人口 14応用面）執筆は所謂大学より成るべく新しい意欲のある人

○山本重氏（大阪市立大）執筆者は元気と若手、問題の大枠はフレッシュにすべき。もうゲンしばってほしい

○内山政照氏（農林省調査）10政党 12農民意識と政治というかいかた 13農業経営 14応用面は農村文化と農村社会学とは今農村が当面の問題として分かりやすい問題で又社会組織を中心 者及び業績と農村社会学といった問題と考へて見たい

○中島重太郎氏（大阪市立大）2家族 3村落 4農村文化 5農村生活 6教育 8自治 9口体 執筆者はベテランでも新しい視点の問題に対し新村氏をすすめる行人 又全体の問題は研究すべきである

○伊藤重郎氏（奈良教育大）この年は問題の中心をもっとはっきりさせる問題を中心にすべきもっとはっきりさせる問題 例えば家族の問題 例えば家族の問題 執筆者は新しい人へよい人選をしたい。今回は農民と民主主義の問題 いろいろ考へる世代の人がどしどし書けばよい

○篠崎和夫氏（奈良教育大）いろいろ